

『蒙求和歌』における漢故事の受容—四季の部を中心に—

章 劍

はじめに

「螢の光、窓の雪……」、日本の卒業式で歌われるこの唱歌は、『蒙求』の「孫康映雪」・「車胤聚螢」の故事に基づくものである。

『蒙求』は、唐の李瀚（翰¹）の撰で、天宝五（七四六）年頃成立した。題名は、『周易』の蒙卦に「匪我求童蒙、童蒙求我」（我童蒙に求むるに匪ず、童蒙我に求む）とあるところから採っており、「訓蒙」（児童に教える）という編纂の目的を示している。李良の「薦蒙求表²」に、

瀚家兒童三數歳者、皆善諷誦。談古策事、無減鴻儒。不素知諳、謂疑神遇。（瀚が家の兒童の三數歳なる者、皆善く諷誦す。古を談じ事を策ること、鴻儒に減ずる無し。素より知諳するにあらざれば、謂へらく神遇かと疑ふ。）

と述べ、その高い教育効果の実績を評価している。後世、『蒙求』は「以爲小學發蒙之首³」（以て小学の蒙を発く

の首と為す）と位置づけられるほど世に広く伝わった。

その『蒙求』は、世に問われて間もなく、遣唐使によって日本に伝えられたようである。『三代実録』卷三十四には、元慶二（八七八）年八月二十五日、陽成天皇が弟の貞保親王に『蒙求』を受講させたという記載が見られる。また、平安時代『蒙求』は貴族子弟の幼学書であり、「勸学院の雀は蒙求を囀る⁴」という諺ができるほど愛読されていた。

そういつた環境の中で、『蒙求』が日本に受容されたことを示す最大の作品、源光行（一一六三—一二四四）の『蒙求和歌』は、元久元（一二〇四）年、鎌倉幕府の三代將軍源実朝への献上品として制作された。

ところが、この『蒙求和歌』を読んで感じるのとは、もとの『蒙求』の話との間にある内容上のずれである。特に四季の部ではそれを強く感じた。そこで本論文では、光行はなぜ、どのようにして『蒙求』と和歌にしたのか、四季の部を中心に考えてみたい。

一 『蒙求』の体裁

『蒙求』の体裁について、李瀚（翰）の序文⁽⁴⁾には、

毎行注兩句人名外、傳中有別事可記、亦此附之。雖不配上文、所資廣博。從『切韻』東字起、每韻四字。凡五百九十六句云爾。（毎行に兩句の人名を注する外、伝中に別事の記すべきもの有れば、亦た此れ之を附す。上文に配せずと雖も、資する所広博なり。『切韻』の東字從り起り、每韻四字なり。凡そ五百九十六句と爾云ふ。）

と云い、李良の「薦蒙求表」⁽⁵⁾には、

撰古人状跡、編成音韻、屬對類事、無非典實。名曰『蒙求』、約三千言。注下轉相敷演、向萬餘事。（古人の状跡を撰び、編して音韻を成し、對を屬り事を類するに、典実に非ざる無し。名づけて『蒙求』と曰ひ、約三千言あり。注下轉た相敷演し、万余事に向んとす。）

と記している。

それによると、『蒙求』は標題と注文の二部分から構成されている。標題は、四字句の韻文で全五百九十六句あり、内容が類似する二句を對句にし、八句ごとに韻を換え、韻字は『切韻』に従う。最初の八句を見てみよう。

- | | |
|--------|--------|
| 1 王戎簡要 | 2 裴楷清通 |
| 3 孔明臥龍 | 4 呂望非熊 |
| 5 楊震關西 | 6 丁寬易東 |
| 7 謝安高潔 | 8 王導公忠 |

1と2は人物のすぐれた才能に関する話で出典も共通しており、3と4は帝王の師になった人の話で最後一字が動物の名であり、5と6は人物のすぐれた才知に関する話で最後一字の「東」と「西」が對になっており、7と8は人物の品評に関する話で「王」・「謝」の二人が並称されている。また、偶数句の最後の一字、「通」・「熊」・「東」・「忠」が韻字で、『切韻』の第一韻の「東」韻を踏んでいる。このような詩的な文言にして子供に朗読暗誦させやすくしたのであろう。そのうえ、『蒙求』の標題の下には、それぞれ對句になる二句ごとに、注が加えられている。

『蒙求』の体裁を見ると、撰者は標題を對句にする際にある程度内容上の類似性を考えてはいたが、あくまでも押韻を重要視し、全体的に話を音韻順に配列している。『全唐詩』が『蒙求』の標題だけを採録しているのは、それを詩と認めたことを意味する。

『崇文總目』・『直齋書錄解題』・『四庫全書』などの多くの書目が『蒙求』を類書に位置づけている。ただ、唐代の代表的な類書、『北堂書鈔』・『芸文類聚』・『初学記』・『白氏六帖』などと比べると、『蒙求』は話の内容によつ

て分類されてはいない。『蒙求』は内容より音韻の方が優先されていたため、話の分類上から見ると活用に不便なものになっている。

その不便さにも関わらず、『蒙求』が日本に伝来すると、類書として活用されていたようで、標題ごとに内容分類の言葉を添えた『蒙求』の諸本が多く見られる。例えば、台北故宫博物院蔵上巻古鈔本では、最初の八句に、次のような言葉が加えられている。

良吏	1 王戎簡要	2 裴楷清通
丞相	3 孔明臥龍	4 呂望非熊
才知	5 楊震関西	6 丁寛易東
隱遁	7 謝安高潔	8 王導公忠
忠敬		

この「良吏」・「丞相」・「才知」・「隱遁」・「忠敬」という言葉は、いずれも話の内容を記したものである。また、東洋文庫蔵伝教家筆標題本には、序文、音釈の後に「良吏」・「勤学」・「酷吏」など七十四の言葉が一覧としてまとめられている。

『蒙求』は、類書として活用するために、再分類される可能性を十分に備えた書物だったのである。『蒙求和歌』も、その『蒙求』の特徴を利用して独自の再編を試みている。

二 『蒙求和歌』の部立

『蒙求和歌』は、『蒙求』の話の約半分の二百五十話を採り上げ、十四部に分けられている。体裁は、『蒙求』の標題に説話文と和歌を付けた一種の歌物語の形式になっている。標題・説話文・和歌の三部分が『蒙求和歌』の基本的構成である。ただし、四季の部は、標題の下に四季の時候や風物など和歌の季語と思われる歌題が加えられ、標題・歌題・説話文・和歌の四部分よりなっている。『蒙求和歌』の部立は次のようである。

1 春部	2 夏部	3 秋部	4 冬部	5 恋部
6 祝部	7 羈旅部	8 閑居部	9 懐旧部	10 述懐部
11 哀傷部	12 管弦部	13 酒部	14 雑部	

最初に春夏秋冬の四季の部を列ね、次に恋部を続けるのは『古今集』・『新古今集』などの先行和歌集の伝統に従うものである。四季の部には、各標題の下に季節を表す歌題が付されているが、これらの歌題も光行が作ったものではなく、やはり従来の和歌集にも見られる。

平安時代の藤原公任（九六六―一〇四一）の撰とされる『和漢朗詠集』、堀川天皇（在位一〇八六―一一〇七）の頃成立した『堀河百首』と、その歌題を比較してみよう。

秋	夏	春
萩・蘆・欒・櫨・前 尽・女・郎・花 日付・菊・九・月 十五夜・付・月・九 晚・秋・夜・八・月 夕・秋・興・秋 立・秋・早・秋・七	蛩・蟬・扇 花・蓮・郭・公 涼・晚・夏・櫨 夜・端・午・納 更・衣・首・夏・夏	藤・款・冬 落花・躑・躑 付・紅・梅・柳・花・付 鶯・霞・雨・梅 月・尽・閏・三・月 付・若・菜・三・月・三・日 付・桐・暮・春・三 興・春・夜・子・日 立・春・早・春・春
虫・菊・紅・葉 迎・月・擣・衣 露・霧・櫨・駒 萩・薄・刈・萱 萩・女・郎・花 立・秋・七・夕	葵・水・鷄・郭 蒲・早・苗・照 射・五・月・雨・盧 橘・蛩・蚊・遣 火・蓮・氷・室 泉・荒・和・秋 更・衣・卯・花	若・藤・款・冬 三月・尽 雁・喚・子・鳥・苗 雁・喚・子・鳥・苗 雨・春・駒・婦 早・蕨・桜・春 殘・雪・梅・柳 霞・鶯・若・菜 立・春・子・日
虫・菊・紅・葉 迎・月・擣・衣 露・霧・櫨・駒 蘭・雁・鹿 萩・薄・刈・萱 萩・女・郎・花 立・秋・七・夕	葵・水・鷄・郭 蒲・早・苗・照 苗・晚・立・盧 橘・蛩・蟬・蚊 遣・火・扇・夕 顔・夏・草 更・衣・卯・花	花・款・冬・暮・春 菜・躑・躑・藤 代・桃・雉・蕨 雁・喚・子・鳥・苗 雁・喚・子・鳥・苗 春・雨・春・駒・婦 柳・花・早・蕨 霞・鶯・梅 立・春・子・日

*暮春 『堀河百首』の「三月尽」にあたる。
 *暮秋 『和漢朗詠集』・『堀河百首』の「九月尽」にあたる。
 *埋火 『和歌朗詠集』・『堀河百首』の「春駒」にあたる。
 *歳暮 『堀河百首』の「除夜」にあたる。

『蒙求和歌』四季の部の全七十の歌題のうち、「雉」・「水鷄」・「晚立」・「夕顔」・「夏草」の五つ以外は、すべて『和漢朗詠集』・『堀河百首』に見える。その五つも先代の和歌集によく使われる言葉である。つまり、これらの歌題は、光行が『蒙求』の内容に応じて作ったものではなく、日本の和歌集の伝統に沿ったものだと言える。

特筆すべきは、『蒙求和歌』の歌題と、『堀河百首』の間の密接な関係である。両者には次の共通点が見られる。

1. 各部の歌題数の一致。いずれも春秋二十ずつ、夏冬十五ずつになっている。

冬	初冬	初冬	初冬
萩・紅・葉・付・落・葉 雁・付・婦・鴈・虫 鹿・露・霧・擣・衣	萩・紅・葉・付・落・葉 雁・付・婦・鴈・虫 鹿・露・霧・擣・衣	萩・紅・葉・付・落・葉 雁・付・婦・鴈・虫 鹿・露・霧・擣・衣	萩・紅・葉・付・落・葉 雁・付・婦・鴈・虫 鹿・露・霧・擣・衣

2. 歌題の一致。『蒙求和歌』の歌題数の八割以上の五十九が『堀河百首』と一致する。

3. 歌題配列順の一致。共通する歌題はほとんど同じ順番に並んでいる。

特に秋部の歌題は、歌題数・歌題・配列順がいずれも一致している。『蒙求和歌』の歌題が、『堀河百首』に拠っている可能性は極めて高いと言える。

『蒙求和歌』の四季の部以外の十部には、「羈旅部」・「閑居部」・「管弦部」など中国風のものが多い。この部立は、次の表のとおり『和漢朗詠集』とのかかわりが深いことが明らかである。

蒙求和歌		和漢朗詠集	
恋部	下	風・雲・晴・暁・松・竹・草・	和漢朗詠集
祝部	卷	鶴・猿・管絃付舞妓・文詞付遺文・	
羈旅部		酒・山・山水・水付漁父・禁中・故	
閑居部		京・故宮付故宅・仙家付道士隱倫・山	
懷旧部		家・田家・隣家・山寺・仏事・	
述懷部		僧・閑居・眺望・餞別・行旅・庚	
哀傷部		申・帝王付法皇・親王付王孫・丞相付	
管弦部		執政・將軍・刺史・詠史・王昭	
酒部		君・妓女・遊女・老人・交友・懷	
雜部		旧・述懷・慶賀・祝・恋	

*羈旅部 『和漢朗詠集』に「行旅」が見える。

『和漢朗詠集』は上下の二巻に分けられ、上巻は春夏秋冬の四部で、下巻は雑部である。下巻の雑部は更に五十ほどの歌題に細かく分けられている。その中には、「刺史」・「詠史」・「王昭君」など、完全に中国風のものも見え、中国の影響（特に類書の部類）を強く受けていると考えてよい。光行は『蒙求』の内容をも勘案して、これを参照したのであろう。『蒙求和歌』の十四の部立のうち、四季の部は日本和歌風に、それ以外の部は中国風になっているのである。

三 光行の思考方式——『蒙求』を四季の歌に

『蒙求』は、標題が韻を踏んでいて詩的要素もあるが、本質は故事集と見た方がよい。それを和歌で詠ずるのは相当難しいと思われる。そこで、光行がどのように工夫して中国の故事と日本の和歌の間の大きな溝を埋めたのか、『蒙求和歌』の四季の部を通して検討してみたい。春部の一例を見てみよう。

丁固生松

楚漢代人、為項羽將、丁公、名八固、季布ガ母弟也、
丁固尚書タリシ時、夢ノ内ニ腹ノ上ニ松オヒタリ、
見テ人ニ語云、松字ハ十八公ナリ、十八年ニシテ公
タラムカ、ト云ヘリ、如夢云云

この話は『蒙求』¹²⁾では、

丁固生松

『會稽録』丁固爲尚書、夢松出其腹上。謂人曰、「松字十八公也。十八歳予其公平。」卒如夢焉矣。〔會稽録〕丁固尚書と爲るに、松の其の腹上より出づるを夢む。人に謂ひて曰く、「松の字は十八公なり。十八歳にして予其れ公なるか」と。卒に夢の如し。

となつている。説話文は、おおむね『蒙求』注の訳になつてゐるが、最初の傍線部の文章が『蒙求』注には見当たらない。それは『後漢書』卷二十八上「馮衍伝」の李賢注に、

丁固、季布母弟、爲項羽將。（丁固は、季布の母弟、項羽の將たり。）

とあるところから採つたものである。光行はその事跡をより詳しく記すため、ほかの中国の文献を調べて、『後漢書』の記述を加えたと思われる。しかし、実は光行のこの増補は間違つてゐる。この『蒙求』の「丁固」は三国時代呉の人である。『三国志』卷四十八「孫皓伝」の裴松之注に、

呉書曰、初、固爲尚書、夢松樹生其腹上、謂人曰、「松字十八公也。後十八歳、吾其爲公平。」卒如夢焉。

とあるのが、恐らく『蒙求』の注が基づいた資料であるうと考えられる。

もちろん、標題・説話文はあくまでも『蒙求』注の和訳だけであり、『蒙求和歌』編纂意図の中心はやはり和歌にある。先に、四季の部の歌題が『堀河百首』に基づく可能性が極めて高いと述べた。それは両者の歌題を比較して一目瞭然であつたが、もう一つ興味深い点が『堀河百首』に見られる。吉野美朋氏はその歌題について、

『堀河百首』の歌題は、崇徳天皇（在位一一三三～一一四二・筆者注）の初度百首に用いられたのをはじめ、永縁（一一〇四～一一二五・筆者注）・俊恵（一一一三～一一八二・筆者注）・藤原惟方（一一二五～？・筆者注）ら個人の百首にも詠まれたが、なかでも藤原俊成（一一一四～一一二四・筆者注）が二十六歳頃に本百首題を述懐に寄せて詠んだことは、次代の定家（一一六二～一二四一・筆者注）や藤原家隆（一一五八～一二三七・筆者注）、慈円（一一五五～一二二五・筆者注）らが初学期に同題を詠む先例となる。そして初学に同題を詠むことは、「むかしの人はみな堀河院の百首、初心のけいこにはよみ侍りしなり」（正徹『正徹物語』）と認識されるほど、鎌倉期から室町期にかけて盛行した。

と述べる。氏の指摘の中で、次の二点が『蒙求和歌』と

関係すると思われる。一つは、『堀河百首』の同題和歌がよく詠まれたことである。挙げられた歌人たちがみな光行（一一六三〜一二四四）と同時代の平安末期・鎌倉初期の人であることを考えれば、光行も彼らと同様に同題和歌を詠んでいたとしても不思議ではない。もう一つは、その題詠が「初心のけいこ」と認識されていたことである。光行がその点を意識して、幼学書としての『蒙求』と結びつけた可能性が十分に考えられる。『蒙求和歌』の序文に

試和皇漢之曩行、聊呈我朝之風俗。（中略）偏爲幼童之易覺、不顧耆老之所嘲而已。（試みに皇漢の曩行に和し、聊か我が朝の風俗を呈す。（中略）偏へに幼童の覚え易きを爲し、耆老の嘲する所を顧みざるのみ。）

と記しているのは、ただの謙遜の語ではなく、光行が「和」（『堀河百首』の歌題）と「漢」（『蒙求』の故事）の初学書を合わせて、『蒙求和歌』の一冊とし、初心者に「和漢」両方の知識を伝えるという創作意図を持っていたこと

○凡例

番号 標題／歌題／説話文（古注『蒙求』に見られず、光行が追加したと思われる箇所は「」で示した）

和歌（片仮名本）／和歌（平仮名本）

【春部】

1 漢祖竜顔／立勅／…大沢…高祖ヲウミテケリ…高祖ガキタル所コトニ紫雲タナビケケリ…〔春ハ和暖ノ氣トトノホリ〕…

とを示している。

『蒙求和歌』の四季の部の歌題が『堀河百首』によるとすれば、その和歌は一種の題詠と見なすことができる。つまり、四季の部において、光行が和歌を作る際は、歌題を中心とし、「堀河百首」↓歌題↓和歌」という流れになつていたと考えられる。

しかし、それだけでは普通の和歌集の作り方と変わらない。『蒙求和歌』と名付けた以上、『蒙求』の話と何らかの関連性を持たせる必要がある。そこが光行のもっとも工夫したところと言える。以下、四季の部全体を通して、その工夫の跡を見てみよう。

そもそも叙事を中心とする『蒙求』と四季を詠ずる抒情を中心とする和歌とは異質なものである。それを一つに合わせるための最も手軽な考え方としては、言葉の関連を持たせることが考えられる。特に『蒙求』と和歌についての「和漢之才」を持ち、それを熟知していた光行が、共通の言葉を見つけることは容易だったであろう。四季の部全七十話には、次のように何らかの言葉上の繋がりが見られる。

- メヅラシキ 翫ノ朝日ハ紫ノ雲間ヲ出デシ光ナリケリ／あめのした ゆく末遠き ばるの色はさはべのくさにあらはれにけり
- 2 丁固生松ノ子日ノ…夢ノ内ニ腹ノ上ニ松オヒタリ、見テ…如夢云云
トトセヨリヤトセフリニシユメヂヨリ子ノビノ春ニアフノ松原／ととせあまりやとせのはるの夢さめて子日にあへる松のあけぼの
- 3 孔光温樹ノ霞ノ…チラス事ナシ…樹ハハニノ木ゾト問ヘバ…モラサズ…
ミヤマギノナヲサヘアダニモラサジト思ヒコメケルヤヘガスミカナ／大かたの名をだに花にちらさじとおもひこめける八重霞かな
- 4 干木富義ノ鶯ノ…文侯、干木ガ家スグルコトニ、車ヨリオリスト云フコトナシ…国ノアルジ…
ウグヒスノアルジナリケルタニノトヲミステタダニスギムモノカハ／鶯の身にしむこゑをこめつればたにのとをさへあだにやはみる
- 5 安国国器ノ梅ノ…我ガ身ヨリカシコキモノヲ求メテ、シルベシテ君ニツカヘケリ…〔皆天下ノ名士也〕…
心アレヤナタカキサトノムメガカヲ花ナキヤドニサソフ春風／心あれやまだみぬさとの梅が枝を花なき宿にさそふはる風
- 6 張敞画眉ノ柳ノ…女ノマユヲヨクツクリケレバ…張京兆ガ画眉トホメツタヘケル
心ヲゾタレモソメケルサホヒメノヤナギノマユノアケボノノイロ／みるからに心うつさぬ人ぞなきやなぎのまゆのあけぼの色
- 7 史丹青蒲ノ花ノ…時ニ元帝、太子ヲステテ、定陶王ニ位ヲユヅラムトス…皇儲…
イタヅラニ春ノアルジヲタヅヌラム春ノミヤマノミチヲワスレテ／いづかたに花のあるじを尋ねけむはるのみ山のみちをわすれて
- 8 汲黯開倉ノ早蕨ノ…又河内ヲスグルニ、水旱ヲウレフルマヅシキモノ万余家アリ…
チラシクル春ノメグミノナカリセバカゲノノワラビモノウカラマシ／雨そそくはるのうらみのなかりせばかげののわらびものうからまし
- 9 戴封積薪ノ春雨ノ…我ガナカラムニハ、雨モフリ民モユタカニナリナラム…天コレガタメニオホキニ雨ヲクダシケリ
アメサソフヤヨヒノソラハシタモエノケブリヨリコンクモリソメケレ／身にかへてよををしみける涙かなやよひのそらの雨とひとつに
- 10 齊景駟千ノ春駒ノ…馬千駟アリ…
春草ノノガヒノユマモノチノヨノチノシルベトナラバコソアラメ／はる草の野がひのこまもなき跡の法のしるべとならばこそあらめ
- 11 王粲覆碁ノ帰雁ノ…モトノ如クニ…ヒトタビモミツルコトヲワスルルコトナカリケルナリ
カヘルカリヘダツルクモノナゴリマデオナシアトゾ思ヒツラネシ／うちみだれ霞にきえてゆくかりは同じ跡をぞおもひつらねし
- 12 龔勝不屈ノ喚子鳥ノ…〔光武…人民悉クニ帰シケリ…〕
ナニトカク思ハヌ山ニヨブコドリキシカタニノミカヘル心ヲ／何とかくおもはぬかたによぶこどりきしかたにのみかへるこころを
- 13 伯成辞耕ノ苗代ノ…候ヲ辞シテ田ヲ作りテ静ニ世ヲワタリケリ
心ヲゾ苗代水ニマカセツル世ニスムミチヲオモヒカヘシテ／心をばなははる水にさそはせてよをうき草のねをたえてける

14 李広成蹊／桃／…桃李不言、下自成蹊…

モノイハヌ花モ人メヲサンヒケリミチモサリアヘズモモノシタカゲ／（平仮名本無）

15 麩竺収資／雉／…家ヲ焼キニ行ク也…家ノ内ノ室ヲハコビイダシ、人ヲオヒイダシテ待ツニ、日中ニ火イデキテ焼ケニケリ

イカバカリコヲ思フキギスマヨハマシヤクベキノベヲケフトシラズハ／子をおもふきぎすやのべにまよはましやくべきはるをかねてしりなば

16 壺公謫天／葦菜／壺公／…ヒトツノツボヲヤノウヘニオイテ…長房トモニツボニ入リス…

タビ人ノヤドカルノベノツボスミレオモハヌハルノヒカズゾツム／たび人のやどかるのべのつぼすみれおもはぬはるの日かずをぞつむ

17 濟叔不癡／躑躅／…賢才人ニ勝レタレドモ、色ニアラハス事无ケレバ…

フミカヨフ山ヂヲダニモイハツツジイハネバコソアレフカキニホヒヲ／やへこむる霞のうちの岩つつじいはねばこそあれふかきこころを

18 靈運曲笠／藤花／謝靈運コノミテ曲柄笠ヲモチキケリ…

ミカサヤマ松ノヨコエヲトガメキテヤドカルフヂノ花ニヲラルナ／みかさ山松のよこえにいまぞしる色こき藤の下の心を

19 劉龍一錢／款冬／…人ゴトニヒトツノ錢ヲトリテケル…

イヘツトニヒトフサヲリシヤマブキノ春ニイロアルキデノタビビト／ひとふさを家づとにせし山吹はるでのかざしのなどぞなるべき

20 薊訓歴家／暮春／…家ニオナジ時キタレリ、家ゴトニカホノ色モ衣ノ色モカハラズ…

ヤドコトニオナジナゴリヲシタフカナ春ノワカレノユフグレノ空／（平仮名本無）

【夏部】

21 辛毘引裾／更衣／…御裾ヲヒキテ、君ヲ思ヒタテマツル故ニ、世ノイタミヲ申ス也…

タガタメモウラナカリケリ夏衣ヨヲハグクミシナサケノミカハ／宿ごとにしほれし色を夏衣うらなくけふぞおもひしらする

22 孟嘗還珠／卯花／…サリニシ珠返リニケリ、郡トミサカエテ昔ノ如シ…

アレハテシカキノウツギモ花サキテ昔ニカヘルタマガハノサト／しばしこそよをうの花のしそめどもむかしにかへる玉川の里

23 漆室憂葵／葵／…馬ハナレテ葵ヲフミカラシキ…

イカニシテノドケキミヨニアフヒグサソノカミ山ヲオモヒシルニモ／ありしにもあらぬ袂にあふひ草むかしをかけてしのぶのぢかな

24 樊会排闥／水鶏／…樊会…オシテ門戸ヲヒラキテ…

（片仮名本無）／くらかりし心のよはもあけにけり槇の板戸をたたく水鶏に

25 漂母進食／郭公／…漂母来リテ韓信ヲウヤマヒアハレミテ…

アハレトゾオモヒシリヌルホトトギスカタラヒオキシ古ヘノ音／あはれとぞ思ひしりける子規かたらひおきしいにしへの声

26 時苗留犢／菖蒲／…犢ヲトドメテ云ハク、コノ土ノ所ヨリ生ル、カルガユエニトドム…

27 常林帯経／早苗／…漢ノ末ニ世オホキニ乱レテ…時ニ常林、田野ニコモリテ、父ヲ身ニソヘテ田ヲツクリケリ…

シヅミテモ、フミミル道ヲウレシヤト山田ノ早苗思ヒトリケム／（平仮名本無）

28 高鳳漂麦／晩立／…麦ヲ庭ニサラシテ…麦ナガレニケリ…雨ノフルコトモ麦ノナガレツラムコトモワスレニケリ…

ユフダチノニハノチギリモワスレミツフカキナガレヲクムトセシマニ／夕立の雲のちぎりもわすれみづのきのしづくのかかるべしとは

29 陸績懐橘／盧橘／…橘ヲトリイダシテアタヘタリケルヲ、陸績フトコロニトリイレテヲガミケリ…

夕チバナノマダウラワカキコズエニモミニシム風ノイロハアリケリ／かぜおつる梢の外も身にしむは花たちばなの匂ひなりけり

30 車胤聚螢／螢／…螢ヲアツメテ、絹ノフクロヲヌヒテ、ホタルヲ入レテトモシビトシテ、フミヲヨミケリ…

ヒトマキヲアケモハテヌアケケケリ、ホタルヲトモス夏ノ夜ノソラ／（平仮名本無）

31 卞和泣玉／蟬／…三日三夜チノ涙ヲ流シテ…玉ヲメシテ玉ツクリニオホセテミガカルルニ、ヒカリ玉石グレテ…

ヒニミガクミネノコズエニナクセミノコエコソタマノヒビキナリケレ／日にみかくみねの梢になく蟬のこゑこそたまのひかりなりけれ

32 田单縦牛／蚊遣火／…牛千頭ヲ取りテ…尾ニ葦ヲツカネテ、ソノサキニ火ヲツケテ…千頭ノ牛、火ノアツクナルニシタガテ…

ナニハガタアシヲリクブルカヤリビノケブリヲ牛ト思ヒケルカナ／なにはめがあしをりくぶるかやり火の煙をうしとおもひきにける

33 黄香扇枕／扇／…夏ノ日ノアツキニ母ノ枕ヲアフギ…母ニオクレテカナシビウレヘケレバ…タスケアハレミケリ

アフグベキ人ナキミコソカナシケレオナジ枕ニナツハキヌレド／しでの山子をおもふやみの枕にもあふぎの風をおもひ出づらむ

34 西施捧心／夕顔／…西施ハミメモカタチモタグヒナカリシ女ナリ…

ユフガホノタソカレドキノソラメニモタグヒニスベキハナノナキカナ／夕顔のたそかれ時のながめにもたぐひにすべき花ぞのこらぬ

35 魏顆結草／夏草／…旅宿、夢ノ内ニヒトリノオキナ、草ヲムスビテ…道ヲシリ、サトリアルユエニ…

夏草ノナビクスエバヲミツルカナシゲミラムスフ夢ノ枕ニ夏ぐさのおいの末ばをみつるかな野中にむすぶ夢のがよひ路

【秋部】

36 張翰適意／立秋／…秋ノ風ノ颯然トシテハシメテイタレルニ、江南…ヲ思ヒイデテ、ニハカニカヘラムトス…

フルサトノナニハノナミニオモヒタツヨリシモソデニアキノウハカゼ／さらでだになにはの波にさそはれて袖にかさねてあきのはつかせ

37 郝隆曬書／七夕／郝隆、文道ニカシコクシテ…七月七日ニタナバタマツリニ…腹ノ内ナルフミヲタナバタニカスナリ…

タナバタニミラゾカスベキ心ヨリホカニハフミノアラバコソアラメ／七夕に身をぞかすべき心よりほかにはふみのあらばこそあらめ

- 38 季倫鐵障ノ萩ノ…ムラサキノ歩障ヲツクルコト四十里ニツツキケリ…鐵ノ歩障ヲツクルコト五十里ニオヨベリ…
ムサシノハハギノニシキヲオラヌマソワカムラサキニシカジトハミシノむさしのは萩のにしきをみぬまにぞわかむらさきにしかじとおもひし
- 39 袁盎却座ノ女郎花ノ…女御…昔ノ人屍ガタメシヲ思ヒシレ…
ヲミナヘシタマノマガキハココロセヨサテゾムカシモツユニシヲレシノ女郎花まがきの宿は心せよつゆのもれきくこともこそあれ
- 40 廉頗負荊ノ荻ノ…廉頗、此事ヲモレキキテ、ウチカナシミテ負荊、相如ガ門ニ至リテツミヲ謝シケリ…
トモスレバソヨギシグレノオトカヘテノキニヲレフスヲギノシタ風ノともすればそよぐぐれのおとかへてのきに折れふす荻の下風
- 41 楊修捷封ノ薄ノ…楊修ニトカシムルニ…黃絹幼婦外孫壘白トカケリ…黃絹ハ色ノ糸ナリ、色糸ハ絶字ナリ…
ミルカラニシルクヤハアラヌイトススキホドヘテタレカ思ヒトキケルノみるほどもなかりし野べの秋かぜに露もおとさぬ糸すすきかな
- 42 息躬歴詆ノ荊萱ノ…ニハカニコハキツハモノ、ヨヲミダラムトセムニ…
(片仮名本無)ノ夕かぜのふきもみたらばいかがせんまがきあれたる庭のかるかや
- 43 廉范五袴ノ蘭ノ…昔日無一襦、今有五袴
日ニソヘテ秋ノアハレハオホエヤマイクノトモナキフチハカマカナノ日にそへてあきのあはれは大原やいくのともなきふちはかまかな
- 44 蘇武持節ノ雁ノ…雁、南ヲサシテトビサリヌ、帝、上林苑ニアソビタマフヲリシモ、賓雁、書ヲカケテイタレリ…
ヘダテコシミヤコノアキニアハマシキコシチノカリノシルベナラズハノさても猶ふみかよふべきくも路かははつかりがねのたよりならでは
- 45 五鹿岳岳ノ鹿ノ五鹿君、字充宗ト云ヘリ…五鹿岳岳タリ、朱雲ソノツノヲヲル…
クモキヨリノバラノ草ヲフク風ニヲレフスシカノコエキコユナリノ(平仮名本無)
- 46 楊宝黄雀ノ露ノ…雀…白環一雙ヲモチテキタリテ、楊宝ニアタヘテ…
ワガカドノワサダノスズメタツアトノイナバニオケルツユノシラタマノわがかどのわさ田のすずめたつことのいなばにおけるつゆのしら玉
- 47 公超霧市ノ霧ノ…五里霧…三里ノキリ…
ヘダツルモハレユクイロトミルモノヲヒトノココロヲアキギリノソラノたなびくもはれゆく色のながめまで人の心の秋霧のそら
- 48 顏駟蹇剥ノ權ノ…老郎ノ鬢眉白キヲミテ…トシハルカニタケニケルマデ…若キ…我レスデニオイニタリ…アハレトオボシテ…
ツヒニカクハルサヘアキニアヒニケリヨヨニシヲレシヨハノアサガホノ思へただ日かげにあはぬあさがほのよよにしほれし老の末ばを
- 49 鄭莊置駟ノ駒迎ノ…人人ユキカヘル馬ノツカレヲカヘリミテ…伝馬ヲタテオキケルナリ
イクタビカコマヒクアキヲムカヘコシアフサカ山ノセキノタビ人ノもち月のこまひく秋をむかへきておもふ人にもあふさかの関
- 50 真長望月ノ月ノ真長ト玄度…トモナリ…清風朗月ニウラムユエハ玄度ガナキコトヲゾト云ヘリ…

- イカニセムトモナキ月ニソデヌレテオモハヌサトニアリアケノソラ／おもひ出づるながめに袖のかわかぬは友なき月に有明の空
- 51 伯瑜泣杖／擣衣／…母オイテ後…伯瑜ヲウツニ…ツエノヨワクアタルニツケテ、ヨハヒオトロヘテ…ウレヘナクナリ…
アキノヨノオイノネザメニウツコロモヨワルヒビキハイカガカナシキ／秋のよの老はねざめにうつ衣よわるおとこそ身にはしみけれ
- 52 軻親断機／虫／…母、ハタヲオリサシテ…
コレヤコノノベノニシキモアサシトテハタオルムシノウラミケルコエ／声たててはたおる虫のうらみずは野べのにしきやあさくみえまし
- 53 桓景登高／菊／…九月九日…高キ所ニ登リテ菊花ノ酒ヲノムベシ…
ケフハシモフモトノハナニエヒナマシタカネノキクヲカザザリセバ／はかなくてふもとのゑひにしづままし山路のきくのなさけならずは
- 54 離朱明目／紅葉／…離朱千里ノ内ノ山ノコズエ、野辺ノ草ノ色ヲタドルコトナシ…
ナガメヤルチサトノ山ノモミヂバハノキノコズエトイハヌバカリゾ／ながめやる山のちさとのもみじばはのきの梢といはぬばかりぞ
- 55 秦彭攀轅／暮秋／秦彭、潁川ノ大守トシテ任ニオモムキテ…任ヲサル日…ナクナクヲシミシタヒケリ
カギリアリテカヘルナラヒハフリヌレドナホコノアキハシタハシキカナ／（平仮名本無）
- 【冬部】
- 56 盛吉垂泣／初冬／…冬ノ節ヲムカフルゴトニ…妻ハトモシ火ヲトリテナク、トモニナミダヲナガシケリ
トモシビノカゲサユルヨノアクルマデ人ノヤミトフ冬ハキニケリ／ともし火のかげさゆるよをゆきめぐり人のかくとふ冬はきにけり
- 57 震畏四知／落葉／…天シレリ、地シレリ、汝シレリ、ワレシレリ、ステニ四知有リ…
チラサジトイハセノモリノモミヂバモアラシハソラハシラシモアラシ／ちらすなといはせの杜のもみぢばもあらしのそこにしらしもあらし
- 58 原憲桑柘／時雨／…桑ノ木ヲトボソトセリ、イタマニハアメモタマラズシテ、トコモクチヌバカリニナリケリ…
アトトムルクハノトサシノユフグレヲシグレナラデハトフ人ゾナキ／かどとづるよもぎの宿をとふものはよはのしぐれのなさけなりけり
- 59 閔損衣单／霜／…フタリノコハ綿入レタルコロモヲキセ、閔損ニハ蘆ノ花ヲ入レタルコロモヲタダヒトヘキセタリ…
コロモデノモリノコズエハハツシモノウラガレユクヲアハレトゾミル／よもすがらつるの毛衣霜ふけてあしのはがくれ子をおもふ声
- 60 鍾離委珠／霰／…鍾離、珠璣ヲエテ地ニステケリ…
クモキヨリアラレニニタル玉ノ色ヲヒトリヤニハニオモヒスツベキ／（平仮名本無）
- 61 孫康映雪／雪／…家マツシクシテ、油ナカリケレバ、映雪、書ヲ読ミニケリ…
ヨモスガラスタレノミゾカカゲツルフミシルニハノユキノトモシビ／よもすがらすだれをのみぞかかげつるふみみる宿の雪のともし火
- 62 趙勝謝覽／寒蘆／…覽者、盤跚トヨロボヒユキテ水ヲクミケルヲ…

ナニハエノアシノシタヲレトニカクニヨシナキアマノクチズサビカナ／なにはえのあしのしたをれとにかくによしなきあまのくちずさびかな
 63 蒼頡制字ノ千鳥ノ…鳥ノ跡ヲミテ文字ヲツクリシナリ、鳥獸ノアトヲミテ、分理ヲサトリワキマヘケリトモ云ヘリ：

ハマチドリムカシノアトヲタツネテゾフテノウミヲバクムベカリケル／はまちどり とびたつあとをたよりにてふみはじめけるあまの通路
 64 王霸氷合ノ氷ノ…王霸ハカリゴトヲメグラシテ、コホリイタクムスビテワタリヌベシト申スニ：

(片仮名本無) / (平仮名本無)

65 羅含吞鳥ノ水鳥ノ…夢ニ五色ノ鳥飛ビテロニ入ルト見テ、サメテ後ニムネノ内ニ物ヲノミタル心地シケリ：

ミツトリノウキネノユメノナゴリヨリナミノ心モフカクナリニキ / (平仮名本無)

66 羊統懸魚ノ網代ノ…羊統ガモトヘ主簿、生魚ヲ送レリ：ホドヘテ主簿又魚ヲ送レリ、モトノ魚ミセテ、ソノ心ヲトドメテケリ
 イトハルルミヲウチガハノアジロギニネタクゾヒヲノオモヒヨリケル / (平仮名本無)

67 郅都蒼鷹ノ鷹狩ノ…世人、目ヲソバメテ蒼鷹トナツケケリ：弓箭ヲトリ馬ヲハセテイルニ：ヤヲハナツコトアタハズ：

ハシタカノカゲウツラシイリヒサスカタノノクサニトリサワグナリ／はしたかののきばうつなる音にさへかたののきぎす草かくるなり

68 陰方祀竈ノ炭竈ノ…トシノクレニ黄羊ヲモテ竈神ヲマツリテ：

イマゾシルヨニスミガマノシルシトテユクスエトホクタエヌケブリヲ / (平仮名本無)

69 阮孚蠟屐 祖約好財ノ埋火ノ…火ヲフキテ蠟屐ナゲキテ：シラズ一生ノ内ニイクバクアシダヲカモチキムトスル：

キエカヘリオモフモカナシウヅミビノイケルアシタノホドモナキヨヲ／きえかへり おもふもかなし 埋火のいけるあしたの程もなきよを

70 虞延尅期ノ歲暮ノ…年ノクレニノゾミテ、幽閑ヲカナシミ故郷ヲコフル心ネムゴロナリケルヲ、アハレミイタミテ：

トシクレシ雲ノトザシヲフキトケバミネノアラシノナサケナリケリ / (平仮名本無)

以上すべてについて、『蒙求』の標題・説話文・歌題・和歌に何らかの言葉上の繋がりが見られることがわかる。そしてそこには、次のような関係が考えられる。

A. 歌題と標題・説話文に共通の語(連想できる語を含む)がある。例えば、「車胤聚螢螢」・「孫康映雪雪」では歌題の「螢」・「雪」が標題にも見える。また、「齊景駟千春駒」・「伯成辞耕苗代」では、歌題の「春駒」・「苗代」

が標題に見えないが、「駟」・「耕」から発想できるものであると思われる。

B. 歌題と説話文にのみ共通の語がある。例えば、「郝隆曬書七夕」・「蘇武持節雁」・「蒼頡制字千鳥」では、それぞれの説話文に、「七夕」・「雁」・「鳥」の歌題と共通の語が見える。

C. 和歌と標題・説話文に共通の語がある。例えば、

「張敞画眉柳」・「壺公謫天董菜」・「靈運曲笠藤花」では和歌に「やなぎまゆ(柳眉)」・「つぼすみれ(壺董)」・「みかさやま(三笠山)」の言葉があり、それらによって標題の「眉」・「壺」・「笠」と関連している。

D. 和歌と説話文にのみ共通の語がある。例えば、「孔光温樹叢」では、歌題と標題・説話文、和歌と歌題の間には関連する言葉が見られないが、和歌の「チラサジ」と説話文の「チラス事ナシ」が同じである。

更に、言葉上の繋がりがただけではなく、光行は和歌部分(歌題・和歌)と故事部分(標題・説話文)をより密接に関連づけることもはかつていて、説話文の内容を和歌に持ち込んでいるものもある。

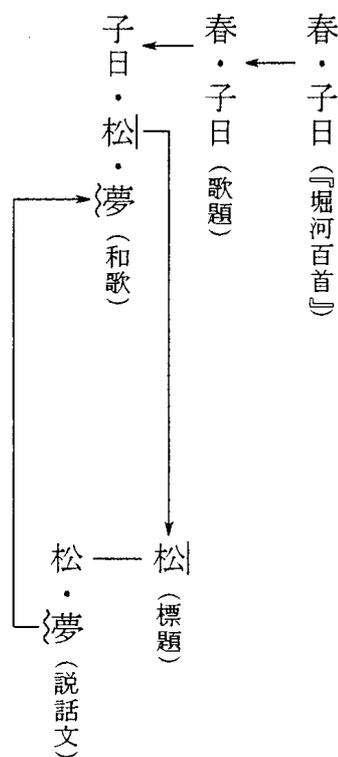
先に挙げた春部の「丁固生松子日」という話では、説話文は、「丁固が松の木が腹の上に生えた夢を見て、松の字を分解すれば十八公となるので、十八年後に公の位となると予言する」という夢兆譚である。歌題の「子日」は標題にも説話文にも見られない。その和歌は、

トトセヨリヤトセフリニシ ユメヂヨリ子ノビノ春
ニアフノ松原

ととせあまりやとせのはるの 夢さめて 子日にあへる 松のあけぼの

となっており、「子日」と「松」が出てくる。「子日の松」

とは、陰暦の正月の初めの子日に野外に出て不老長寿を願って小松を根の付いたまま取る行事のことで、和歌にはよく使われる。『堀河百首』では、「子日」の題下に十六首の和歌が収められ、いずれも「子日」と「松」が読み込まれているので、この両者を入れて詠むことは、「子日」の題詠の決まりごとだったと考えられる。当然、光行は「子日」の歌題を詠ずる時、そのことが頭の中にあつた。そこで、『蒙求』の「丁固生松」が浮かんできた。そして、説話文の「夢」という表現をも踏まえながら和歌を作り上げたのであろう。ここでの光行の思考の流れは、次のようになる。



また、説話文の一部だけではなく、次のように、その内容を全体的に考えた上で和歌を創作する例も見える。

安国国器梅

韓安国、梁ノ孝王ニツカヘテ中大夫タリキ、才智深

カリキ、財ヲムサボリタシナマズ、我ガ身ヨリカシ
 コキモノヲ求メテ、シルベシテ君ニツカヘケリ、所
 謂壺遂、臧固、郅他、皆天下ノ名士也、此故ニ安国
 ヲ国ノウツハモノト云ヘリ

心アレヤナタカキサトノムメガカラ花ナキヤドニ
 サソフ春風

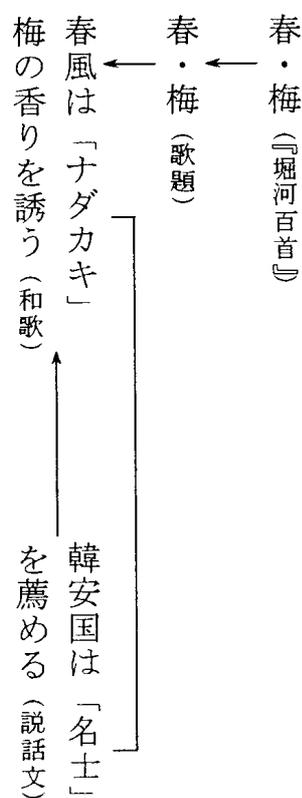
心あれやまだみぬさとの梅が枝を花なき宿にさ
 そふはる風

という話がある。言葉上の繋がりは、片仮名和歌の
 「ナタカキ」と説話文の「名士」以外、関連づけられる
 ものがない。歌題の「梅」と故事の間にも明確な繋がりは
 見つけられない。

ところが、内容上から考察してみれば、和歌と説話文
 の間に密接な関連を持つことがわかる。説話文では、韓
 安国が梁の孝王に仕えて中大夫になり、天下の名士を次
 々と推薦し、国政をゆだねる大器量の人と称賛された、
 ということが記されている。和歌では、春風が梅の香り
 を花のない宿に誘うことを詠んでいる。和歌の「ナタカ
 キ」と説話文の「名士」の関連性をもとに考えれば、梅
 の香りが名士の喩えということになる。とすれば、梅の
 香りを誘う「春風」は、名士を推薦する韓安国の喩えに
 なるであろう。

説話文の「所謂壺遂、臧固、郅他、皆天下ノ名士也」
 という文言は、古注『蒙求』に見られず、⁽¹⁵⁾光行がその出
 典の『漢書』の韓安国伝から追加したと思われるもので
 ある。その中に「名士」という言葉も含まれている。こ
 れは、説話文と和歌を結びつけるための光行の工夫であ
 る。

ここでの光行の思考の流れは、



というように考えられる。故事の主旨とは関係ないが、
 その話の筋を巧みに置き換えて和歌を創作している。
 そもそも、『蒙求』の故事は、ある教訓的なもので、そ
 の主旨は和歌では伝え難い。故事と和歌に内容上の関連
 があっても、そのほとんどは、故事の本来の主旨に触れ
 ず、ある部分だけを取り上げて詠まれたものである。一
 例を挙げてみよう。

張翰適意 立秋

張翰、齊王ニメサレテ東曹掾タリキ、齊ニ有ル時、

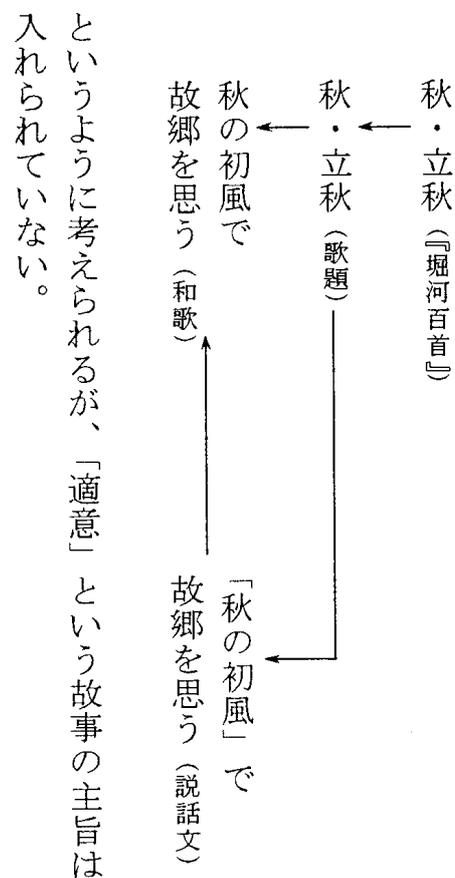
秋ノ風ノ颯然トシテハジメテイタレルニ、江南ノ菰菜ノアツモノ、鱸魚ノナマスヲ思ヒイデテ、ニハカニカヘラムトス、人トドムレドモキカズ、人ノタノシブコト心ニカナフヲヨシトス、オホヤケ、コトニ羈レテ、数千里ヲマモリテ、ツカサクラキヲモトメテモ、ナニニカハセムト云ヒテ江南ニカヘリヌ、ソノ後无程、斉王ホロビタマヒニケレバ、時ノ人、張翰ハヨノヒサシカルマジキコトヲ兼テサトリテ、サリニケルナリトゾイヒケル

フルサトノナニハノナミニ、オモヒタツ、ヨリシモンデニ、アキノウハカゼ

さらでだになにはの波に、さそはれて、袖にかさねてあきののはつかぜ

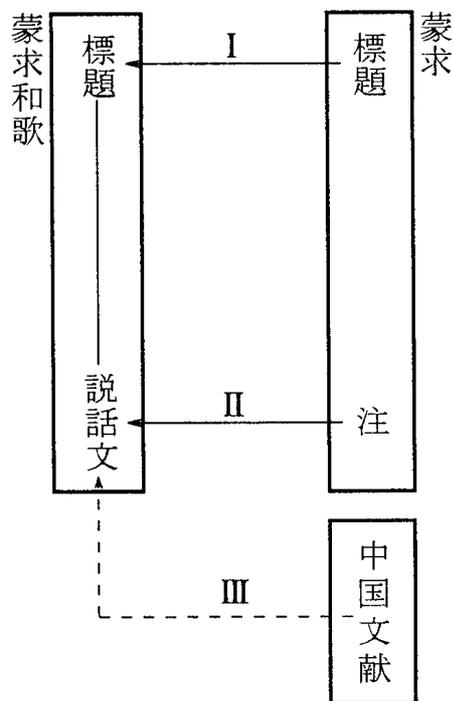
張翰は役人として斉王に仕えていたが、秋風が起きると江南の故郷のおいしい料理を思い出し、さつさと数千里の旅をして、故郷の呉に帰った。説話文は、秋風をきっかけに役人をやめて自分本位の生活をしようと帰郷した人の話として書かれている。和歌は、秋風がきっかけで故郷を思い出すという箇所だけを取り上げて詠まれている。

ここでの光行の思考の流れは、



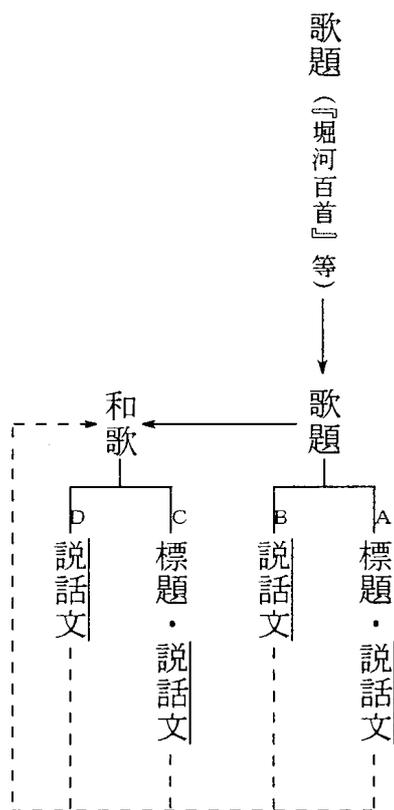
おわりに

以上の考察によって、『蒙求和歌』四季の部における光行の創作をまとめてみよう。故事部分(標題・説話文)については、下図に示されるように、



『蒙求』の標題をそのまま踏襲し（Ⅰ）、その注を翻訳して説話文を作り（Ⅱ）、時には注以外の中国文献を取り入れて説話文を増補説明する、という光行の思考方式がわかる。

和歌部分（歌題・和歌）については、光行の思考方式が次のようになると思われる。



光行は、『堀河百首』などの日本従来の和歌集から四季の歌題を採って『蒙求』を和歌に詠じた。その時、『蒙求和歌』の和歌部分（歌題・和歌）を故事部分（標題・説話文）と繋げるため、「歌題と標題・説話文（A）」、「歌題と説話文（B）」、「和歌と標題・説話文（C）」、「和歌と説話文（D）」などの言葉上の関連づけを行っていた。

また、話によって説話文のある部分の表現を和歌に持ち込む（破線）という工夫もしていた。

今後は、引き続き四季以外の部立についても考察し、『蒙求和歌』の全貌を把握したうえで、中国古典の日本での受容形態の一端を明らかにしたいと思う。

注

(1) 『蒙求』の撰者については従来諸説紛々としており、未だ定説がない。現存する『蒙求』の諸本には唐の李瀚と記されるものが多いが、必ずしもそうとは言えない。今のところ、余嘉錫氏の「李翰」説（『四庫提要弁証』卷十六「子部七」「蒙求集注二卷」、中華書局、一九八〇年）と、早川光三郎氏の「李瀚」説（新釈漢文大系『蒙求』「蒙求解説」、明德出版社、一九七三年）が有力視されている。また、撰者の生きた時代については、唐末五代（『全唐詩』卷八百八十一・五代晋『四庫全書総目題要』卷一百三十五「子部」類書類一）などの誤記も見られるが、李華の「薦蒙求表」によると、唐の玄宗の頃であることは確かである。

(2) 台北故宮博物院蔵上巻古鈔本（池田利夫『蒙求古註集成』上巻、汲古書院、一九八八年）に拠る。

(3) 陳振孫『直齋書錄解題』卷十四「類書類」「蒙求三卷」（中文出版社、一九七八年）を参照。

(4) 前掲注2。尚、この序文を李華の「蒙求序」の後半部分とする本も多数見られる。

(5) 前掲注2。

(6) 卷八百八十一（中華書局、一九六〇年）を参照。

(7) 池田利夫『蒙求古註集成』上巻（前掲注2）を参照。

- (8) 前掲注7。
- (9) 菅野禮行校注・訳『和漢朗詠集』(新編日本文学全集19、小学館、一九九九年)を参照。
- (10) 青木賢豪等共著『堀河院百首和歌』(和歌文学大系15、明治書院、二〇〇二年)を参照。
- (11) 本論文では、『蒙求和歌』のテキストとして新編国歌大観片仮名本(第十卷、角川書店、一九九二年)を用いる。尚、平仮名の和歌は新編国歌大観平仮名本(第十卷、角川書店、一九九二年)によって補う。
- (12) 国立故宮博物院蔵上巻古鈔本(前掲注2)第214話を参照。
- (13) 青木賢豪等共著『堀河院百首和歌』「解説」(前掲注10)を参照。
- (14) 『蒙求和歌』四季の部では片仮名本と平仮名本によって話が少し異なる。本論文では片仮名本に拠る。尚、『蒙求和歌』のテキストについては、池田利夫著『日中比較文学の基礎研究―翻訳説話とその典拠―』(補訂版)第五章「蒙求和歌の伝本系統と諸本」(笠間書院、一九八八年)を参照。
- (15) 尊経閣文庫蔵本(前掲注2)古注『蒙求』第45話「安国国器」に『前漢』、韓安国事梁孝王、爲中大夫。爲人多大略、智足以謀當世取舍。不貪財。然所推舉、必薦賢於己者。士亦以此稱之。唯天子以爲國器。』(『前漢』、韓安国 梁の孝王に事へて、中大夫と爲る。人と爲り大略多く、智以て当世の取舍を謀るに足る。財を貪らず。然れども推挙する所は、必ず己より賢なる者を薦む。士も亦此を以て之を称す。唯だ天子以て国器と爲す。)とある。